

見学会 「利用者本位の建築デザイン」とはなにか —知的障害者の地域生活を支える居住環境を探る—

ユーザー・オリエンティド・デザイン小委員会では、設計者が把握することが難しい利用者のニーズについて、どのように建築設計に反映すべきか事例をもとに検討を重ねてきた。その成果を、昨年2月に「利用者本位の建築デザイン」という書籍としてまとめた。

今回は掲載事例のひとつである、知的障害者のための「グループホームはやぶさ」と、同じ社会福祉法人が運営する日中活動施設を見学し、次のキーポイントについて、設計に携わった設計者や研究者、運営する社会福祉法人からの話題提供や議論を通じて、地域生活の拠点となる居住環境の新たなデザインについて知見を深めたい。

- グループホームが地域にある「小施設」とならないために
- 設計者にとって「見過ごされやすいニーズ」
- 地域でのひとり暮らしへと移行するために求められるグループホームでの生活経験とそれを支える環境
- 知的障害者を居住だけでなく、総体としての暮らしの視点から考える地域生活を支える基盤
- 設計者や大学関係者と多様な当事者と幅広く協働する設計プロセス

日時
2018年11月24日(土) 12:50~16:30

プログラム

12:50 名鉄豊田線豊田市駅 改札前 集合(受付・集金)

見学1「グループホームはやぶさ」

見学2「グループホームリ〜ふ」「生活介護水音」

話題提供(会場:「生活介護 水音」の食堂)

- 城多加志(社会福祉法人輪音理事長)／「知的障害者の生活を地域で支えるために」
- 青木一実(atelier-fos一級建築士事務所)・藤田大輔(福井工業大学)／「利用者ニーズを反映した設計デザインとは」
- ディスカッション

16:30 終了

※見学先の間の移動はタクシーを予定しています

参加費

日本建築学会会員:1,500円

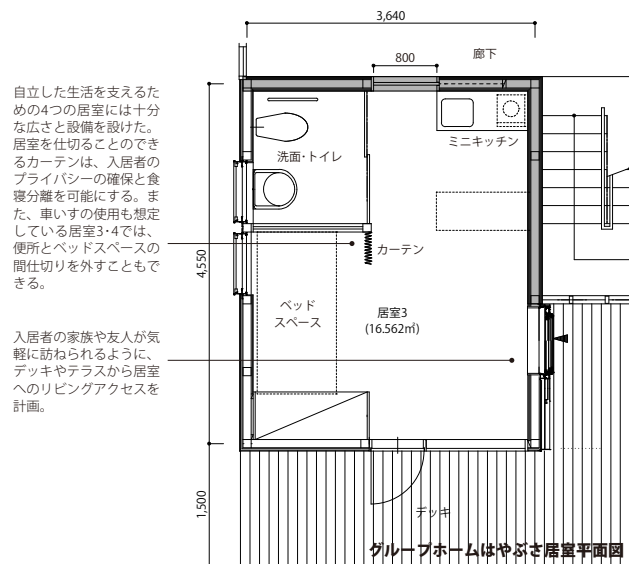
会員外:2,000円

学生:500円

申し込み

催し物名称を記し、氏名・勤務先・所属・同電話番号を明記して、加藤悠介(金城学院大学・ykato@kinjo-u.ac.jp)までメールしてください。

申込締切:11月16日(金)



「グループホームはやぶさ」は直接接外部とつながる「玄関」を各居室に設けることで、独立性のある生活を可能とするなど、グループホームから独立して地域に住むことを体験できる工夫がなされている。

運営する社会福祉法人は、知的障害者の地域生活を支える環境を整備するために、その統一性を考え、重度の障害者のための「グループホームリ〜ふ」や、日中活動の施設「生活介護水音」も同じ設計者「atelier-fos一級建築士事務所」が設計している。

